

心象風景

image

加藤鉦次 Shoji Kato



ヘビに出会った日 2001 2273×1818mm 油彩、テンペラ、キャンバス

広く真っ平らで、地平線がどこまでも続く濃尾平野、白くほこりっほい唯々遠い何もない、そんな幼児期の記憶、これが私の原風景となっている。

この地はその後おおかた水田となって今日に至っている。

春にはレンゲ畑となり、初夏には水が入り一面の湖となる。

秋には稲が実り黄金色の海となる。一年中四季折々それぞれの装いを見せるこの、ある意味平凡な田園が私の日常の風景である。ここに立つと、子供の頃体験した事が思い出される。

田植えや稲刈り、当たり前子供もその中で労働をした。その時の土の匂い、水の温度、足の裏の感触、光の暖かさ……。この、時間・空間を積み重ねた一つの場所から、日本人の脈々と続いた生活の背景——仏教を中心とした農耕社会、信仰から生まれるそこでの民族の営み——等々がイメージされ、誰もが共通の意識を持っていた事の大切さに気付く。そして失ったものの大きさを痛感する。

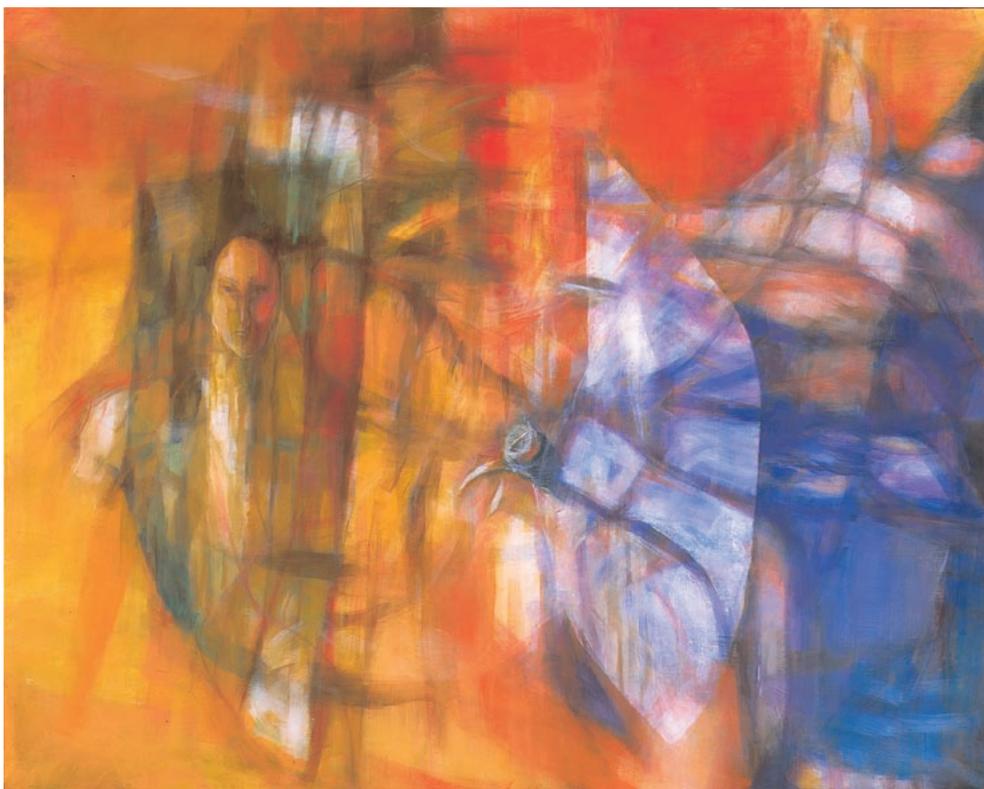
遺伝子に含まれる日本人としての潜在意識などテーマとして取り組んでいる。



濃尾平野に地を占めてⅡ 2007 2273×1818mm 油彩、テンペラ、キャンバス



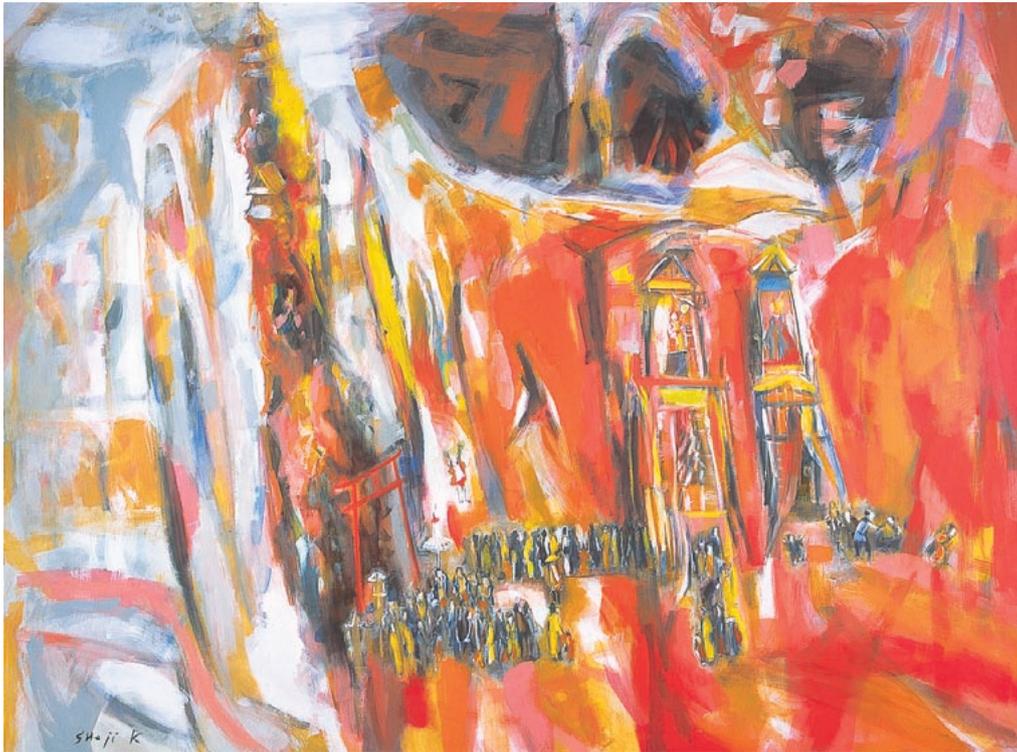
濃尾平野に地を占めて 2006 2273×1818mm 油彩、テンペラ、キャンバス



鳥が過った瞬間Ⅱ 2003 2273×1818mm 油彩、テンペラ、キャンバス



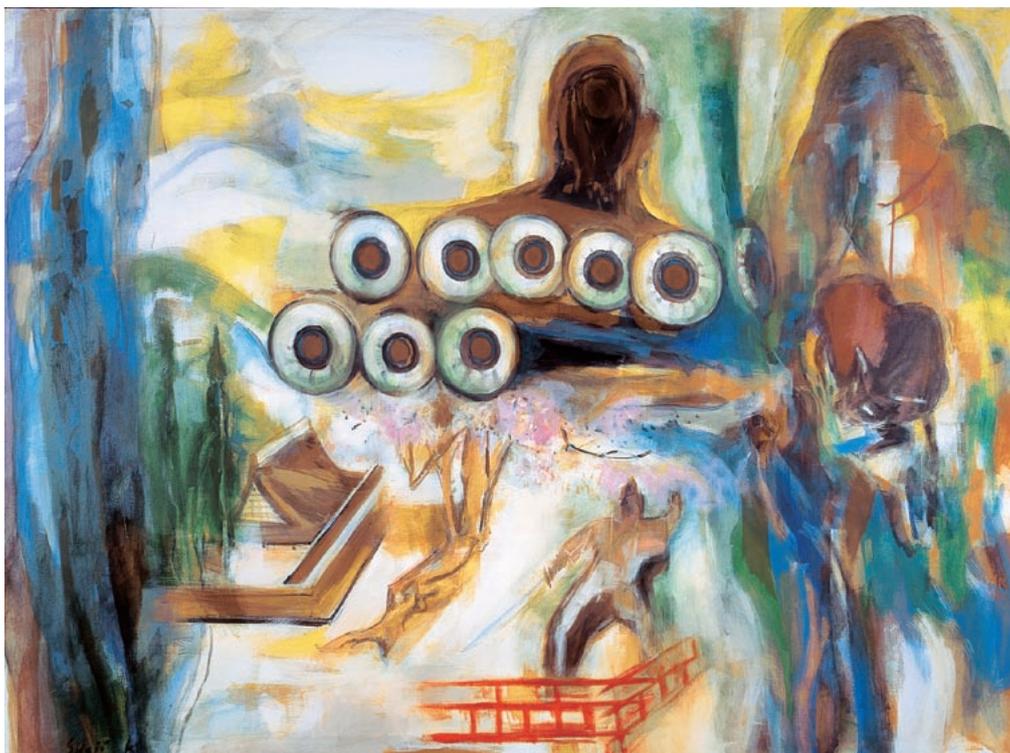
あめんぼうは金色に光った 2005 2273×1818mm 油彩、テンペラ、キャンバス



祭 2008 2590×1940mm ミクストメディア、キャンバス



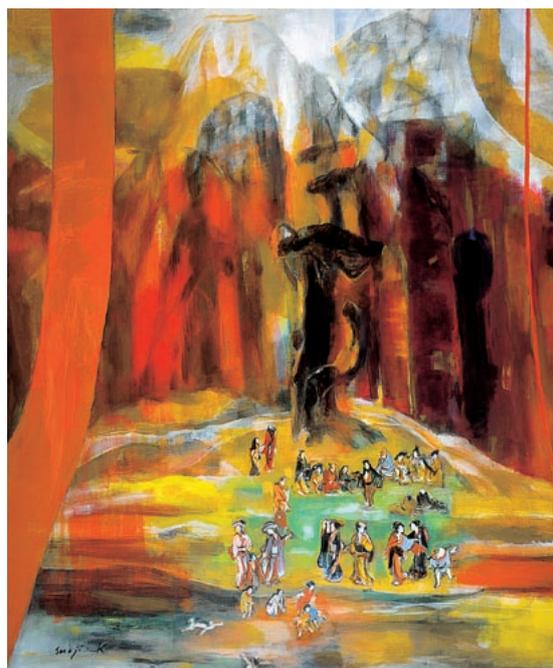
田植 2008 1940×1620mm ミクストメディア、キャンバス



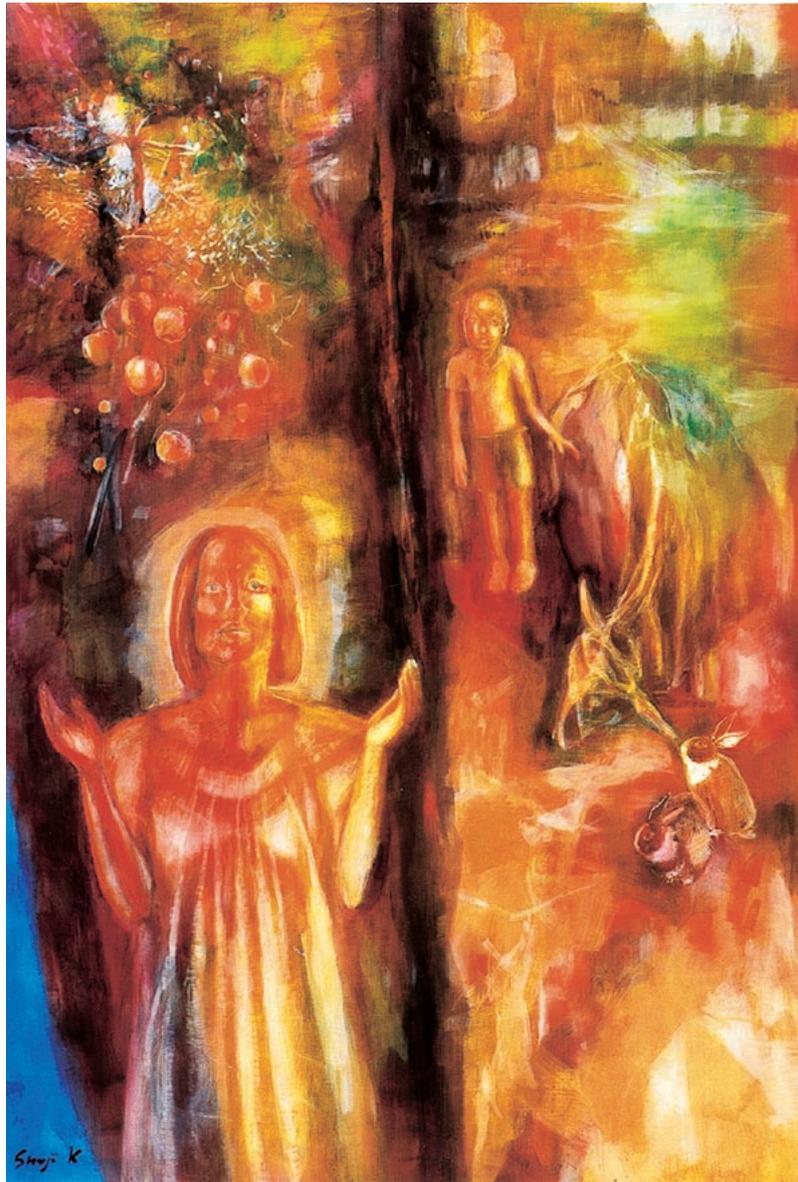
待て!!—酒呑童子と渡辺 綱— 2008 2590×1940mm ミクストメディア、キャンバス



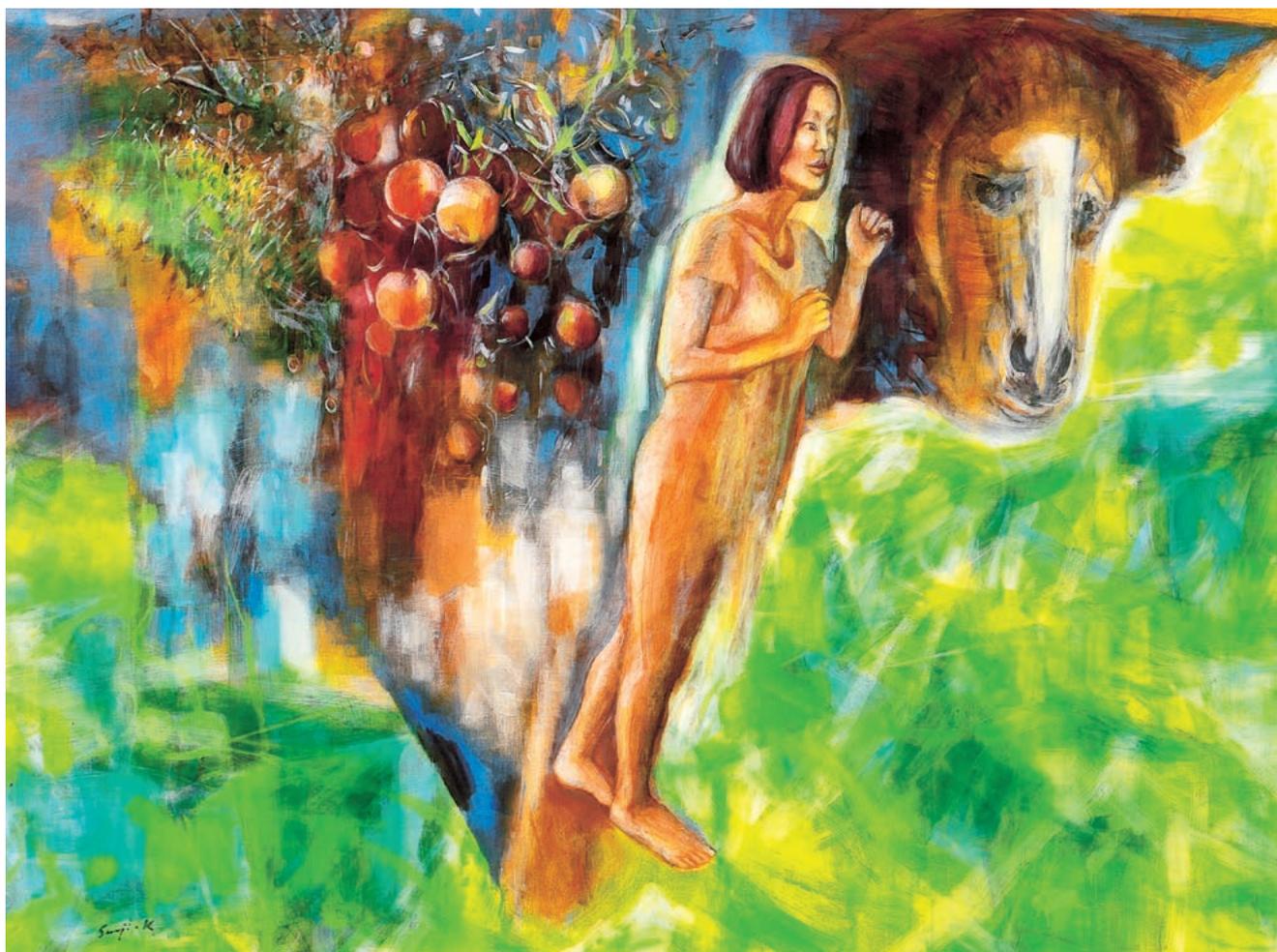
花見 2008 1940×1620mm
ミクストメディア、キャンバス



宴 2008 1940×1620mm
ミクストメディア、キャンバス



実りの丘 I 2008 1940×1303mm 油彩、テンペラ、キャンバス



実りの丘II 2008 2590×1940mm 油彩、テンペラ、キャンバス